県大会、団体準優勝

６月２８日（日）、第 62 回静岡県鮎友釣り競技選手権大会が河津川で開催されました。

昨年の地区大会で個人第２位の上田光雄さんがチームに加わり、団体三連覇を目指しチームの総力を挙げて臨みましたが、惜しくも１９６ｇ差で準優勝となりました。個人では、塚本選手の第７位を筆頭に、白幡選手 15 位、齋藤選手 31 位と続きました。主な成績は次のとおり。

出場選手　※左から
間久（補欠）、齋藤、塚本、津島、上田、白幡

＜団体の部＞　総重量戦（ｇ）

順位	漁協名	重量	尾数
1	狩野川	2,202	59
2	大井川	2,008	54
3	新大井川	2,008	49
4	仁科川	1,868	45
5	稲生沢川	1,796	43
6	阿多古川	1,720	49
7	安倍藁科川	1,704	60

＜個人の部＞　総重量、尾数、高齢の順

順位	氏名（年齢）	漁協名	重量	尾数
1	山田　仁（59）	狩野川	826	21
2	高柳宏人（41）	仁科川	702	16
3	石川勝広（61）	新大井川	604	12
4	前田浩之（52）	東伊豆	598	13
5	紅林太一（66）	気田川	556	16
6	長池文夫（65）	稲生沢川	554	14
7	塚本俊之（50）	大井川	552	17
8	木下　敦（59）	興津川	536	19
9	正木　忍（52）	河津川Ａ	536	16
10	山下道弘（61）	狩野川	506	16

＜大物賞＞ **須 田　豊（仁科川）８１ｇ**

機関紙「ぜんない」第 36 号から

川の日本一

日本には、国土交通大臣が指定した１０９の一級河川と、都道府県知事が指定した７０８４の二級河川、市町村長が指定した１４２５３の準用河川があって、それぞれ多様な水辺環境を作っています。
この中から、特徴のある川を拾ってみました。

日本一　長い川は？

最も長い川は「信濃川」で３６７㎞。源流部は群馬県の甲武信ヶ岳で、水源の標高は２４７５ｍ。長野県から新潟県を流れ下って、新潟市で日本海へ注いでいます。

日本一短い川は？

和歌山県那智勝浦町を流れる「ぶつぶつ川」で１３．５ｍ。この川は、湧水が民家の脇を流れて粉白川（このしろがわ）に合流するまでの子供でも飛び越えられそうな川幅の二級河川で、漁業権はありません。

手前の湧き水から写真上の粉白川合流までの 13.5m（ウィキペディアより）

日本一　幅の広い川は？

埼玉県中央部を流れる「荒川」で堤防間の距離が２５３７ｍ。江戸時代、江戸の町を水害から守るために、荒川の中流域に当たる現在の埼玉県鴻巣市地先に広大な氾濫原を設けました。ここに設けられた堰堤（水制工）とそれに繋がる橋が一直線に伸び、橋のたもとには「川幅日本一の」標識が立っています。ちなみに、この橋の下の通常時の流れ幅は数１０ｍ。河川敷の多くは耕作されていますが、時にはこの橋のたもとまで増水して、見渡す限り泥濁りの湖のようになることもあります。

日本一の急流河川は？

日本三大急流といえば、富士川・球磨川・最上川です。

河川勾配は、富士川が２．１％、球磨川が０．９６％、最上川が０．８８％であることから、富士川が日本一の急流と言えるでしょう。

日本一　漁獲量の多い川は？

河川における平成２４年の漁獲量の合計は１７，９６７トンで川別では北海道の網走川がサケを主体に１，８１４トンで最多です。

アユの漁獲量では、神奈川県の相模川が３４０トンで最も多く、相模川における漁獲量の９２％をアユが占めていました。

相模川（寒川取水堰）

日本一大きなアユが獲れた川は？

平成９年６月に、３６．５㎝の尺アユが釣れたとの情報もありますが、公式には、平成１０年に兵庫県の揖保川で、３５．８ｃｍの鮎が釣れたと記録されています。

このアユは燻製になって揖保川漁協に展示してあります。また、揖斐川河畔には、「友釣り発祥の地」と記した石碑が建てられていました。